

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 24 年 4 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

めだけ
女岳では2011年12月までに確認されている地熱域に対応する融雪域が引き続き確認され、その一部ではやや拡大している事が認められました。火山性地震は少ない状況で、ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図2～5）

10日に岩手県の協力により実施した上空からの観測によると、女岳北東斜面では2011年12月までに確認されている女岳の山頂北部、北東斜面、北斜面、南東火口、北西斜面及び山頂付近の地熱域に対応する融雪域が確認されました。2010年4月の同時期に岩手県の協力により実施した観測と比較すると、融雪域や地表面温度分布¹⁾での地熱域がやや拡大しているのが認められました。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

東北地方整備局が仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラで、14日に一時的に女岳から高さ10mの噴気を観測しました。噴気活動は低調な状態となっています。

・地震や微動の発生状況（図6～7）

火山性地震は少ない状況が続いています。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図8～9）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

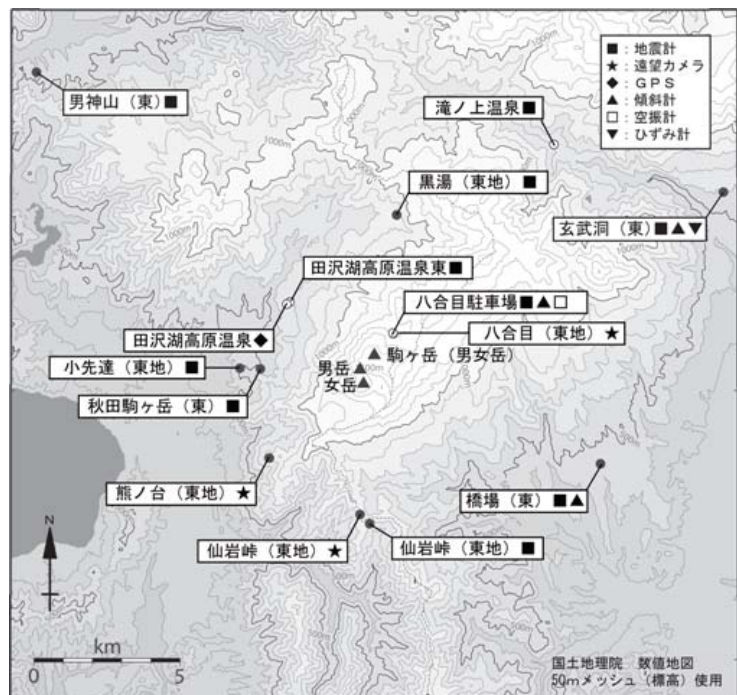


図1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （東地）：東北地方整備局

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成24年5月分）は平成24年6月8日に発表する予定です。

※この資料は、気象庁のデータの他、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

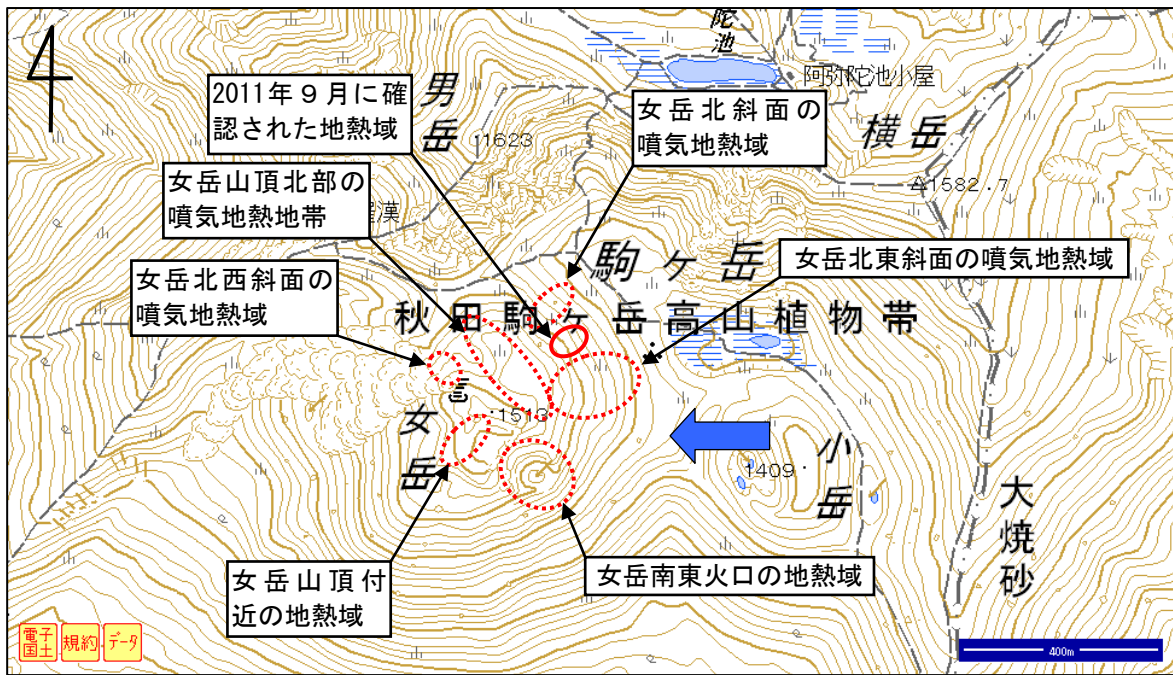


図2 秋田駒ヶ岳 上空からの撮影方向
矢印は図3の上空からの撮影位置と方向を示します。

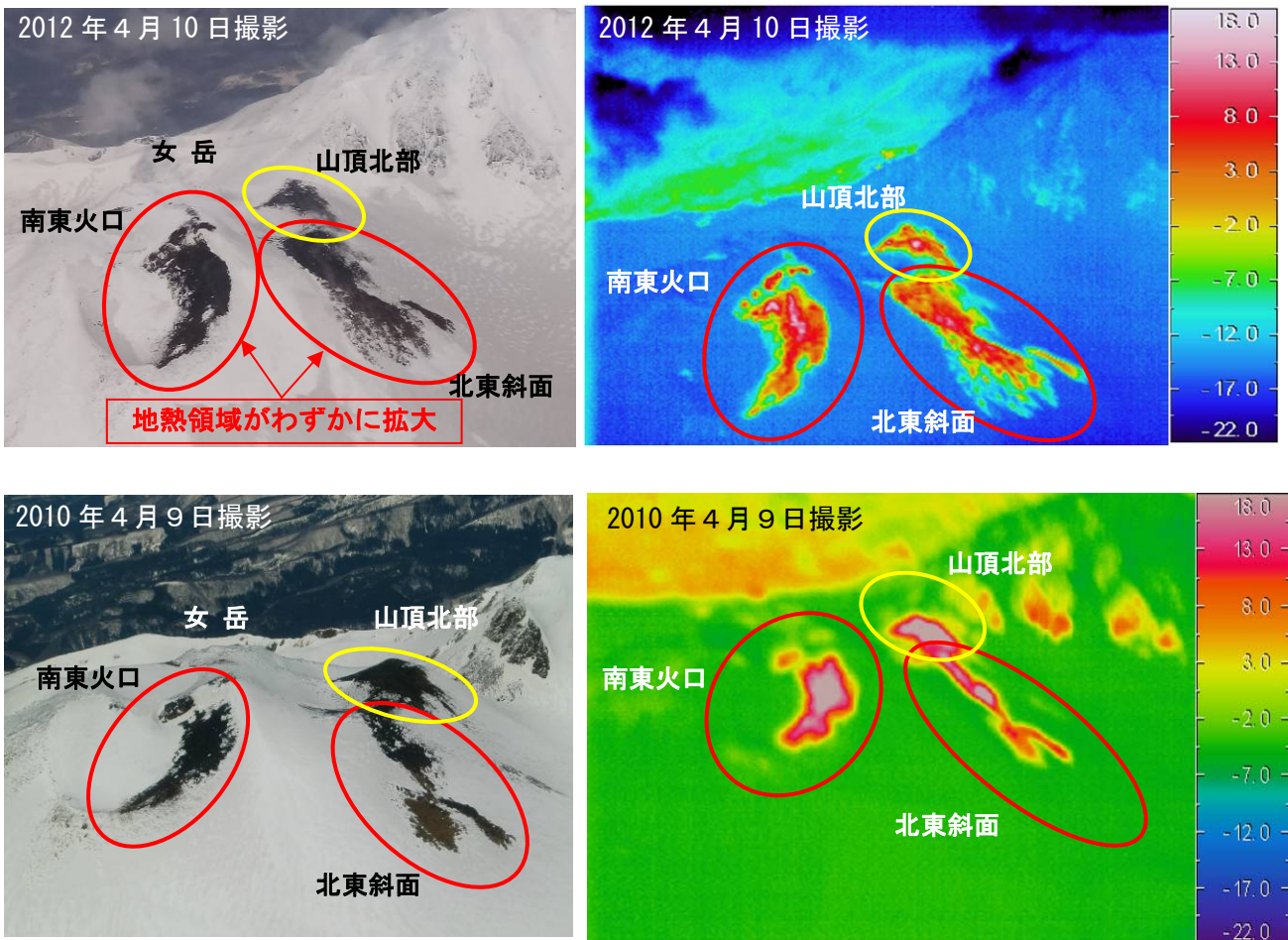


図3 秋田駒ヶ岳 女岳の上空からの可視画像と地表面温度分布¹⁾
 ・ 上段：今回 2012 年 4 月 10 日撮影、下段：前回 2010 年 4 月 9 日撮影
 ・ 岩手県の協力により、図2の矢印方向上空から撮影。
 ・ 実線赤色囲みの領域が女岳北東斜面及び南東火口の地熱領域でやや拡大しているのが認められました。
 ・ 実線黄色囲みの領域が女岳山頂北部の噴気地熱地帯。

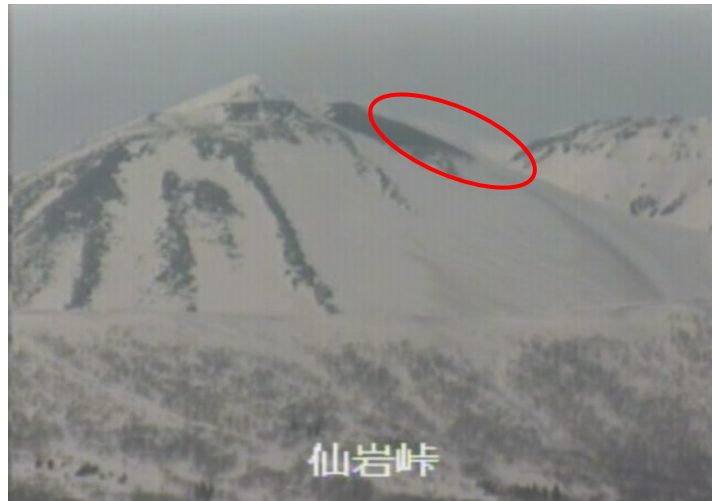


図4※ 秋田駒ヶ岳 女岳からの噴気の状態（2012年4月14日15時00分頃）
仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）による。実線赤丸で囲んだのが、女岳からの白色噴気で高さは10m。



図5※ 秋田駒ヶ岳 日最大噴気の高さ（2010年4月～2012年4月）
熊ノ台（女岳山頂の南西約5km）及び仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）による。

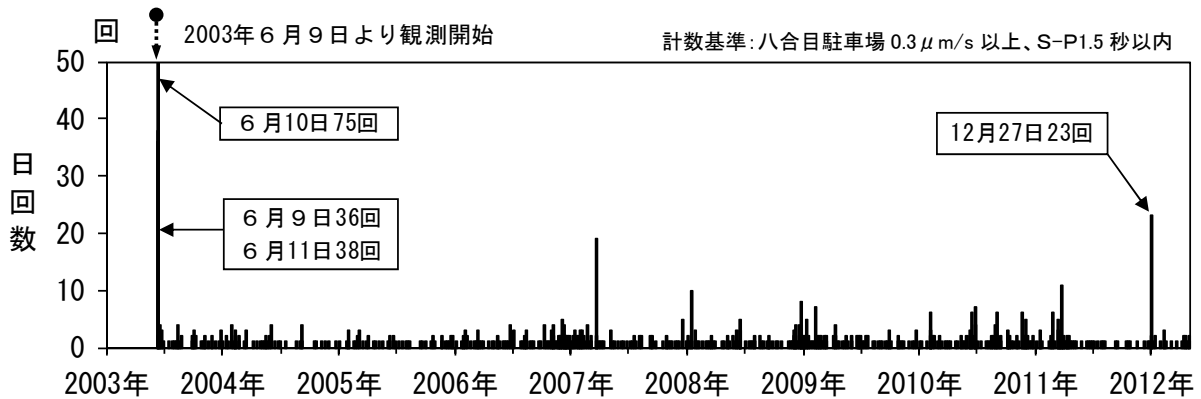


図6※ 秋田駒ヶ岳 日別地震回数（2003年6月～2012年4月）
計測基準：2003年6月9日～東北大学秋田駒ヶ岳観測点（振幅 $0.5\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内）
2012年4月1日～八合目駐車場（振幅 $0.3\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内）

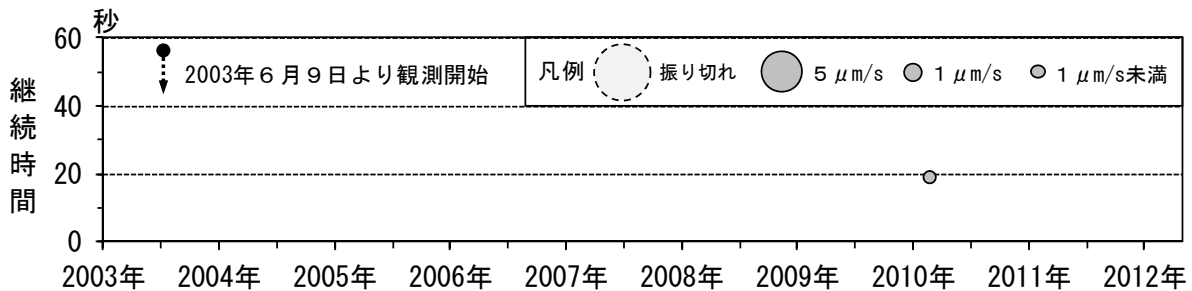


図7※ 秋田駒ヶ岳 微動の継続時間と上下動最大振幅（2003年6月～2012年4月）
2003年6月9日から東北大学秋田駒ヶ岳観測点による。
2012年4月1日から八合目駐車場に変更。

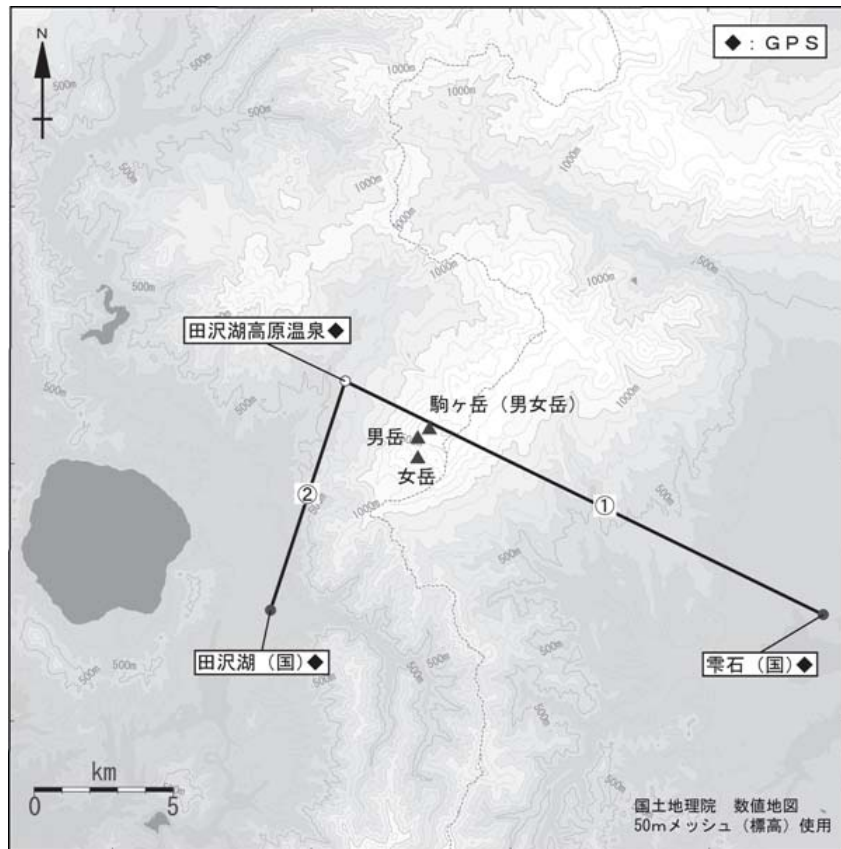


図 8 秋田駒ヶ岳 GPS 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。(国) : 国土地理院 GPS 基線①~②は図 9 の①~②に対応しています。

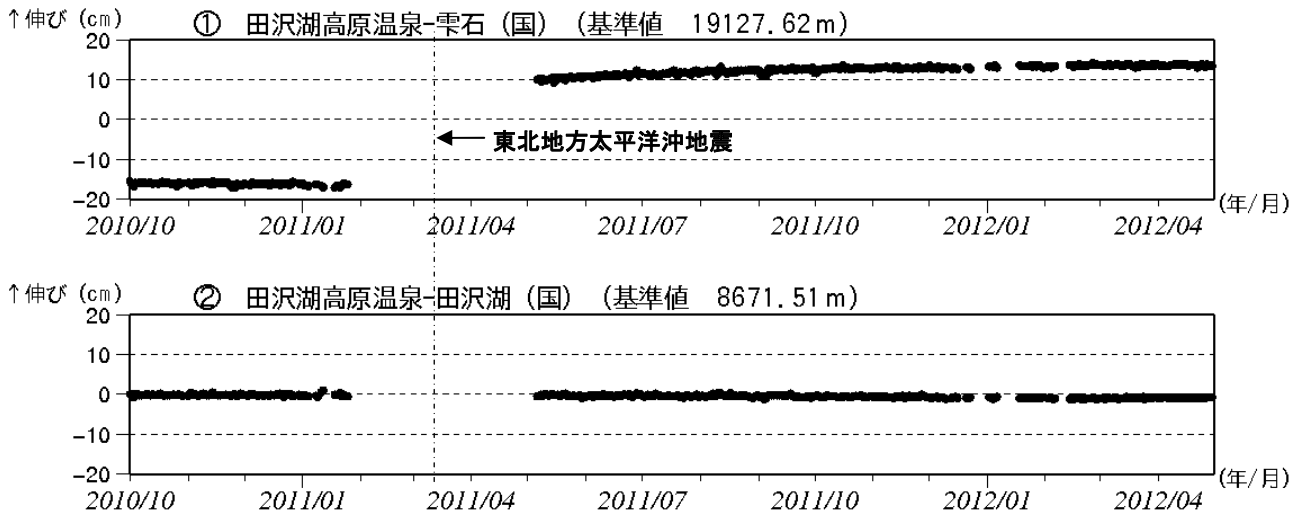


図 9※ 秋田駒ヶ岳 GPS 基線長変化図 (2010 年 10 月~2012 年 4 月)

①の基線では、欠測期間中に東北地方太平洋沖地震によるデータの飛びがみられます。また、その後の変動は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。

①~②は図 8 の GPS 基線①~②に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を表しています。